

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	Confidence 自信 Communication 対話 ①学び直しによる確かな学力の育成と定着を図る。 ②コミュニケーション力を育成するため教科横断的な探究型学習を追求する。	①一人一台端末を活用して学習習慣を身に付けさせるとともに、生徒の個別の学習状況を把握し、個別最適な支援につなげる。	①-1 朝学習と連動した課題配信により、学習習慣を定着させる。 ①-2 チェックテストとフォローアップ配信により、授業で取り組んだ範囲の学力を定着させる。	①-1 課題の提出率の目標値75%とし、目標値を超えることができたか。 ①-2 生徒による授業評価において、「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」の肯定的な評価が85%を超えることができたか。					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	Confidence 自信 Compliance 遵守 ①社会人として通用するための規範意識を育成する。 ②自己目標を達成することにより自分を肯定する力を身に付ける。 ③中学校との連携や交流から部活動や学校行事における生徒の主体的な活動の支援を図る。	①生活指導と学習指導の一体化により、基本的な生活習慣を確立させる。 ③小中学校との交流や中高大連携講座、ボランティア、インターシップなど生徒の主体的な活動を活性化する。	①朝学習への取組みにより、生活習慣の一部として登校時間を定着させる。 ③小中学校へ訪問してのボランティアや明日楓会等を通じたボランティア、中高大連携講座やインターシップへの参加を促す。	①年間遅刻数が60回以上の者の割合を前年度の19%より減少させることができたか。 ③連携生の入学者数は減少(45⇒37)したものの、ボランティアの参加者(43)、中高大連携講座(22)やインターシップ(21)への参加者数において、前年度並みの数を確保することができたか。					
3	進路指導・支援	Confidence 自信 Communication 対話 ①社会人基礎力をつけ、コミュニケーション力をベースとした人間力を培う。 ②就職、進学や外国につながるのがある生徒の多様な進路に対応できるカリキュラムの追求を継続する。	②キャリア教育実践プログラム及び地域と協働した活動により、多様な進路に対応した指導・支援に取り組む。	②-1 総合的な探究の時間において、生徒の望ましい勤労観と職業観を育成する。 ②-2 ボランティア精神と公共性のある住民活動の実務体験を通して将来設計の立案と社会的移行の準備を進める。	②-1 生徒による授業評価において、「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた」の肯定的な評価が前年度の85%を超えることができたか。 ②-2 進路決定率が前年度の87%を超えることができたか。					
4	地域等との協働 ② CEMLA とは、Center for Multicultural Learning & Activitiesの略で多文化学習活動センターという意味。	Compliance 遵守 Communication 対話 ①学校運営協議会と意見交換をしながら地域に貢献できる人材の育成を図る。また地域学校協働本部(明日楓会)と連携し、実践的な就業体験の実施など生徒のニーズに対応する。 ②連携型中高一貫校として、愛川町の教育力を高め、地域発展につなげる。多様性を認め、他者を敬う姿勢を構築する。	②「外国につながるのがある児童・生徒」との関わりを通して、多文化共生社会の担い手となる生徒を育成するとともに、授業のユニバーサルデザイン化や生徒への個別支援の充実に取り組む。	②-1 CEMLA研究会を通じて、高校・大学・NPOに愛川町の小学校を加えて「外国につながるのがある児童・生徒」の教育などについて研究を進める。 ②-2 地域の大学と連携して「日本語を母語としない生徒」に対して、授業において多言語による個別支援が可能なシステムの研究を進める。	②-1 「外国につながるのがある児童」が一定数在籍する小学校の授業見学を入口にして、課題をみつけ、その課題を解決するための方法などを提言する準備ができたか。 ②-2 一人一台端末を活用して、授業の同時通訳など多言語による個別支援が可能なシステムの構築について実現できたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	Compliance 遵守 Communication 対話 ①心理的安全性の確保と風通しの良い職場づくりにより事故不祥事を防止し、働き方改革を推進する。 ②防災意識を高め、地域全体で子どもを守る体制作りに取り組み、安全で安心な学校環境を維持する。	①月80時間超の時間外在校等時間をゼロにし、月45時間超の時間外在校等時間を昨年より減らす。 ②不祥事防止等に関する職員からの提案や意見を取り入れ、不祥事防止会議を通して、必要な取組を実施する。	①管理職による声かけや面談により長時間勤務を削減するとともに、ICTの活用による校務の効率化を進める。 ②不祥事防止会議を各グループが主宰する形式で実施し、同僚性を高める組織づくりに取り組み、事故不祥事を防止する。	①月80時間超の時間外在校等時間を前年度の4名からゼロに、月45時間超の時間外在校等時間を前年度の延べ55名より減らせたか。 ②不祥事ゼロプログラムにより、継続的に職場研修を実施し、事故不祥事ゼロを達成したか。					